

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3392200055		
法人名	有限会社 創和		
事業所名	グループホーム 桃の里 1階(ユニット共通)		
所在地	岡山県赤磐市下仁保100番地		
自己評価作成日	平成27年4月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3392200055-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成27年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々穏やかに、また以前と変わらない生活を送れるよう、できる事はご自分で行なっていたいただき、できない部分はお手伝いをさせていただきますが、できる事を少しずつ増やしていけるように介助させていただいております。利用者1人1人の表情、言葉、行動を読み取り、その方にあった介護をしていくように心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

赤磐市でグループホームを始め、小規模多機能ホーム・デイサービス・居宅介護支援事業所・サ高住等を幅広く運営展開している(有)創和であるが、この日、何気なく挨拶を交わしたテレビの故障修理に来た人が、後で職員から会長だと聞き、その気さくな人柄に会社の理念が「英気動人」であるのも頷けた。法人内の異動で職員の入れ替わりはあるが勤務年数の長い職員が多いのも、このホームが働きやすい環境にあるのがよく分かる。昨年1年間は2階の管理者が一人で両ユニットを受け持っていたが、今年の4月から二人体制に戻り、勤務年数10年のベテラン職員が1階の新管理者として頑張っていた。管理者からホーム内の雰囲気明るくし、今後に向けてもっと活動的な事を考えていきたいと聞いた。身体的不自由な人の自立支援として本人の持続している能力に添って自走式の車椅子を購入し自分で操作してもらおう等、他の利用者にもできる部分を応援し不自由な部分を職員が補うような支援をしている。地域に貢献しながら前向きに頑張っているホームに今後も期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に付くところに掲示し、自身や利用者にあてはめるようにしている。	理念や目標を掲示して「笑顔・親切・分かりやすい声かけ」等、職員がいつも心にとめながら日々の業務に活かしている。、利用者の高齢化・重症化に伴う身体機能や活動意欲の低下にも留意しながら職員間で話し合い活動的な支援に取り組んでいこうとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの来訪など行っている。	今年地域の新区長からの熱いお誘いもあり、下仁保祭りに参加する事が出来た。ホームからはくじ引きゲームを用意して利用者も4名、職員と一緒に参加した。出店を楽しみ、地域の人との交流もあった。毎年、中学生のボランティアの訪問もあり、楽しみに待っている利用者もいる。	運営推進会議の課題にもなっている保育園等との交流であるが、こちらから出向くのではなく児童・園児が行事やイベント等に合わせホームに訪問・慰問という形での実現可能な取り組み方をしてみてはどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや職業体験を受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を行っている。会議の際は多くの意見交換がありサービス向上に繋がっている。	地域包括、老人クラブ代表、民生委員、区長等が参加して定期的開催されている。活動内容が分かるように写真を添付していたが、参加者からの提案で1年前からヒヤリハット報告もするようになった。「ヒヤリハットのその後は職員でどのような対応をするのか」という質問もある等、活発な意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、現状を伝えている。	運営推進会議には市の担当者の参加があり、色々な提案や情報提供をもらっている。認知症カフェについての話もあるが今のところホームでの実現には至っていない。何かあれば担当者に連絡して相談し、連携を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保のため玄関の施錠は行っている。帰宅願望の多い方には散歩に行ったり好きなことをしてもらっている。	身体拘束廃止委員会があり、職員の意識は高く、身体拘束0の実現に向けて取り組んでいる。「外に出たい」と帰宅願望のある人には、職員が散歩に付き合う等気分転換を図ったり、その人の得意な事を手伝ってもらい気を紛らわすような声かけをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払	言葉遣いや介助の仕方等、職員皆で注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で特定の者には研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って説明し、十分時間をとって話し合った上でおこなっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や毎月の手紙等で状況を報告している。家族の要望は積極的に受け入れていると思う。	毎月、担当者が行事・生活の様子・プランの評価・健康面等の7項目からなる状況報告の手紙を家族に出している。家族の面会時にもよく話し合っている。恒例になっている利用者直筆の年賀状作成に今年も取り組んでいた。	毎月家族へ状況報告の手紙を出しているが、画一的な様式になっているので、写真を掲載するとか担当者からの親密感があり温かみのある文面での内容にする等、様式変更をしてみるのもよいかと思う。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面会時など、家族の要望を受け入れている。	各ユニット会議、法人全体の会議等を毎月開催し意見交換をしている。職員から提案のあったフロアの照明器具の改善についても話し合った。10代～50代までと職員の年齢層も幅広く、利用者との話題の共通性もあり、職員間の仲も良い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月会議を開き、その場で意見を反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	分からない事はそのままにせず、職員同士で、確認しあい、モレのないようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修機会を用いたり、また自社他事業所との交流によって図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や要望があれば耳を傾け、気分転換に散歩やぬりえを取り入れている。本人の言葉を傾聴し、思いを受容しケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設での生活が、今までの家庭の延長になれる様個々の要望は出来るだけ受け入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	細かい情報も職員間で共有し、統一した介護が出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する、される、という考えではなく、一緒に生活しているという考えの職員が多く、自分の家族のように優しく接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要な時はすぐ連絡を取り、相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、家族の面会がある時は、自室で一緒に過ごせるようにしている。	職員とドライブがてら自宅に立ち寄ったり、盆には家族と帰宅する人もいる。面会に来た時、居室に入らずリビングで他の利用者と話をしてくれる家族や姉妹で入所している人もいる等、馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話を通し、お互いがいい関係で居られるように対応している。同じ作業をしている時も共に教えあったり、工夫していることも見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により契約終了になった方についても、随時コンタクトをとり支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のちょっとした言葉や表情を記録し、職員間で共有するようにしている。	身体的に不自由であっても本人の希望で自走できる車椅子を購入して出来る限りの自立支援をしている。今年100才のお祝いをした人がいたが、新聞に写真掲載する件で確認を取った結果、本人の意思を尊重して載せなかった事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時、また生活の中で情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に本人の言葉や表情・行動を記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで話し合い、課題等を検討している。	利用者の担当制を敷いており、職員間で話し合いながらプランを検討している。モニタリングの様式を見てもプロセスが分かりやすい。ケアプランの意向欄に本人がどう暮らしていきたいか、何をしたいか等の具体的な記述があると尚、分かりやすい。	援助計画書の本人・家族の意向欄の記述が1Fと2Fでは多少違うが、本人の思いや気持ちが今一つ具体的に見えてこない。身体機能面ばかりでなく「心のケア」を念頭に置いた支援をして欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートやメモにて情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事:ミキサー食で食している方も寿司や麺等本人が好きな物や比較的食べやすそうなものは本人に確認し、そのまま提供することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	該当なし		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、定期的な受診、24時間対応の連絡体制をとっている。	受診できる人は職員が付き添い同行しているが、重症化した人は月2回の往診がある。訪問歯科の他、マッサージの先生の訪問がある。今日はマッサージの訪問の日であった。職員に看護師もいるので日頃の健康管理も出来、安心して生活できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の服薬(特に処方が変わった時)チェック、体調の変化は記録に残し、伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、かかりつけ医に相談し、本人にとってベストな対応が出来る様心がけている。また、かかりつけ医とは些細なことでも相談できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化の場合の指針」としてご家族に説明を行っている。	利用者も高齢化・重度化が進んでいるので家族とは終末期について日頃からよく話し合っているが、今年度も1名の看取りを行った。前日の息子さんの面会の時には特に変調はなかったが老衰での自然な最期だった。24時間連絡を取れる協力医や職員に看護師もいるので心強い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	かかりつけ医、看護師とすぐに連絡が取れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害・地震時のマニュアルを作り、年2回の避難訓練を行っている。	年2回、利用者と一緒に日中と夜間想定での避難訓練をしているが、運営推進会議では防災に備えて消防署にも来てもらったかどうかという意見もある。市からの助言で防災管理講習会には参加している。	普段は1Fと2Fはエレベーターで行き来しているが、災害時の電気系統故障等も想定して、階段での避難方法を考えたり、ホームの構造や利用者の状況を日頃から消防署員に把握してもらおう事も必要と思う。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴、個室等プライベート空間への配慮を意識している。	「ゆっくり分かりやすく声かけし一つひとつ確かめながら接する」事を目標に掲げ、利用者の意思を尊重したケアを心がけている。同性介助をする等、排泄や入浴時の羞恥心への配慮も欠かさない。新規職員には法人合同で年1回マナー研修をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寝たい時に寝る、したい時にする、といった事をなるべく行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服等汚れが気になる時は、本人の気の障らぬよう声掛けし着替えを行う。2か月ごとに訪問理美容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は難しいが片付けが出来る方には行ってもらっている。個々にあった食べやすい形態を提供している。	外部の業者に委託しており、調理済の食材にミキサー・刻み等、その人の状態に合わせて職員が手を加えているが、ご飯やお粥はホームで作っている。自分でご飯にふりかけをかけている人もいた。食後の下膳を出来る人には手伝ってもらったり、どら焼きやパンケーキ等のおやつ作りを利用者と一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて、水分制限のある方には口渇しないように少しずつ提供する等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々の口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をみてその都度声掛けをし、失禁を減らすようにしている	排泄が自立している人も数名おり、トイレの中に「うんちが出たら○印をつけて下さい」と4名の利用者の名前が書いてあるホワイトボードが掛けてある。その他の人にも職員が個々の排泄チェック表を見ながら適宜、自立支援に向けた声かけ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり摂ってもらい、適度な運動を心がけている。下剤や便を柔らかくする薬も併用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決まっているが個々のタイミングや状況に合わせて行っている。入浴を楽しみにしている方が多く、入浴中も会話や歌を楽しんでいる。	入浴は週3回を基本としているが、その日の体調や気分によっては柔軟に対応している。「たいぎい」と言いながらもお風呂を楽しみにしている人もいので、タイミングを見計って声かけしている。重度化している人には二人介助やシャワー浴、足浴等で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝返りできない方には定期的に体位変換を行ったり、クッション等あたりの防止を行っている。日中短い時間ではあるが、昼寝をし、体を休めるようにしている。眠そうにしたら、横になるようこえかけしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果についてファイルし把握している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持ってもらい支援している。図書館より紙芝居等借り、読み聞かせをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	計画は立てているが、実現は難しい。家族との外出を楽しみにしている方もいる。	今年はお茶会を計画していたが、生憎その日は天候が悪く出来なかった。天気の良い日はホームの敷地内にある畑で野菜の植えかえを手伝ったり、水やりを日課にしている利用者もいる。みんなで散歩もよく出かけるようになった。周囲には桃畑が広がっており、戸外で日光浴や外気浴をしながら楽しんでいる。	ホームの中庭は洗濯物干し場や花壇があり陽当たりも良い。このスペースにテーブルやイスを置いてお茶を飲んだり休憩場所として、もっと有効活用してみるのも良い。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週1回パン販売が来て、好きなパンを選んで購入している。1名自己管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月手紙を出している。電話は家族の方が多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる飾り付けを行っている。写真も飾っている。	リビングの壁には百寿を迎えた人のお祝いの写真やイベントの写真、貼り絵・塗り絵等の利用者の作品が展示されている。午前中に利用者が顔を描いたサンタクロースの折り紙を職員が「ありがとう、描いてくれたんじゃろう、飾っとくわ」と言って壁に飾っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて過ごす事が多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や本人の書かれた書初めを飾っている。仏壇を持ち込まれている方もいる。	使い慣れた家具や調度品を持ち込み、中には分厚い日本語大事典や小説等の愛読書を置いている人もいる。その人の状態に合わせて敢えてベッドのみのシンプルな環境や立派な木の表札を掛けている人もいて、それぞれ個性的で落ち着いた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることはご自分でして頂く。		